

新しい挑戦に期待する

公益社団法人 日本包装技術協会
専務理事 古屋 一

先月末に日本包装技術協会の専務理事に就任いたしました古屋でございます。本日はお招きいただきありがとうございます。日頃のご協力にお礼を申し上げ、一言ご挨拶させていただきます。

第47回定時総会おめでとうございます。私ども日本包装技術協会は、現在創立50周年で、先月式典を開催いたしました。昭和38年に包装技術協会が出来まして、当時、包装技術協会を運営していくためには「何か柱がないとだめだ」という意見が非常に多くありました。何を事業の柱にするか、議論の前提にひとつだけ理念があって「包装技術協会は工業会や組合とは全くちがう団体である。従って包装の全分野を網羅する」という理念のもとに議論がなされ、2年間協議して出来たものが、「包装管理士講座」と「東京パック」でした。

昭和41年、第1回包装管理士講座が始まり、30名が受講して25名が合格しました。そのころから厳しい講座でした。特徴的だったのは、その当時から商業包装と工業包装に分けて、ともに演習等を入れて構成されていました。非常に驚いたのは、共通科目の中に「包装工学」という科目があったことです。

☆ それから48年、48期の包装管理士講座が先々週より始まりました。410名の方が受講しておられます。47期までで、11,400名以上の包装管理士が誕生しています。皆様は包装のプロとして直面する問題を解決し、いろいろな新しい技術に挑戦しておられることと思います。今後の皆様にぜひ期待したいのは、包装に関心を持つ現在の消費者に対して、問題に直面した時の対応や新しい挑戦についてどのように説明していくかということです。これを単純明快に消費者にご説明できることも、今後の技術者にとって重要なことだと思います。ぜひ皆様をお願いします。

今年は「暮らしの包装商品展」を10月に開催いたします。すでに3つの市民団体、消費者団体から参加のお申込みがありました。多くの主婦の方が登録しておられる団体もあります。来場されるお客様や参加団体の方々に対する管理士の皆様の説明を、事務局として期待しております。

最後になりましたが皆様が十分に力を発揮し、井上会長の下で新しい挑戦をしていく包装管理士会となることを期待しています。それと共に包装技術協会への変わらぬご指導、ご支援、ご協力をお願いして私のご挨拶といたします。

(第47回定時総会来賓挨拶より 文責：編集部)

《INDEX》

定時総会	2
支部だより	6



PACKAGING INFORMATION
包装技術者の連携と協力をめざす

日本包装管理士会 会報
No.115

ipp
news

ipp news
2013年8月25日発行
編集人／荒井拓哉
発行／日本包装管理士会
東京都中央区築地4-1-1
TEL 03-3543-9250

第47回定時総会を終えて

日本包装管理士会 会長 井上伸也（5期）

会員の皆様へご報告です。第47回定時総会を6月19日に開催いたしましたところ、活発な討議をいただき、議題については提案のとおりご承認をいただきました。ありがとうございました。

今期も承認していただいた内容に従って会の運

営を行わせていただきます。具体的な内容は別項の総会報告をお読みいただきたいのですが、総会冒頭のご挨拶で申し上げたことや活動方針の中から、特徴的なことについて紹介させていただきます。

一つには、総会議案書の事前配布です。事前配布といっても、印刷物として会員の皆様にお届けできたわけではありません。e-mailを活用し、アドレス登録していただいた総会出席会員の皆様へ総会の1週間ほど前に議案書をお送りすることができました。この事前配布により質疑の活発化と必要事項の事前把握によるご了解から、順調な総会運営を行うことができました。

本来なら事前に印刷物をお配りし、ご意見をまとめていただいた上で、総会でというのが当然なのでしょうが、若干無理があり当日配布が続いておりました。ここ数年、理事の皆様、会員の皆様にお願いしてメールアドレスを登録していただくという形がようやくできてきました。総会結果・議事録についてもメールアドレスを登録していただいている会員には自動的に配信することを検討しています。eメールアドレス未登録の会員にはホームページ上で告知し、配信したいと考えております。

IT手法の活用について総会議案書&議事録配信を例にご紹介しましたが、会の活動案内についてもメールでの配布が主流になりつつあることを報告します。登録されたアドレス数の拡充とメンテナンスが大切です。アドレス登録とともに、会への積極的な関与、すなわち双方向的な発信をお願いいたします。



二つには、IPP設立50周年記念の事業検討についてです。IPPの総会も今回が47回、総会后直ちに50周年記念事業の実施時期の確定と具体的な内容について方向性を出し、それを実行委員の皆様にごフィードバックし、具体化を進めたいと思っています。50周年までにはまだちょっと時間があるように思えますが、過去のデータの掘り起こしや皆さんお元気なうちにいろいろご提供いただきたいということと考えますと時間的な余裕はもうないという気もしております。

本部として長い年月の中には、事務所の移転などにいろいろなことがございましたので、その間貴重なデータが無くなっている、本当は残してほしかった部分が処分されて、無くなっていたりすることもあります。遡って記憶をたどってほしいというようなことや資料をご提供下さいというお願いを会員の皆様にすることになると思います。その節は是非ご協力をいただけるようお願いいたします。

三つには、IPPの母体ともいえるJPIとの協同と、包装関連4団体の交流です。今総会にも日本包装専士会、技術士包装物流会、日本包装コンサルタント協会の各会長に来賓としてお越しいただきました。IPPを合わせた4団体として東京パック2012では、共同展示・運営を行い、実現の過程でいろいろ議論することができました。これからもそれぞれの団体の特性が生きるような形で交流を進めさせていただきたいと思っています。

最後に、会員増強に向け、会員の皆様の協力をお願いし、総会を終えてのご報告といたします。

第47回日本包装管理士会定時総会開催される

2013年6月19日（水）、第47回日本包装管理士会定時総会が、榊文昌堂10F貸会議室において開催されました。

総会は、29名の出席者と412名の委任者によって成立し、公益社団法人日本包装技術協会専務理事 古屋一氏、日本包装専士会会長 伊藤浩明氏、日本包装コンサルタント協会会長 鹿毛剛氏、技術士包装物流会会長 田中好雄氏を来賓にお迎えして開催されました。



来賓の皆様

審議に先立ち、井上伸也会長の挨拶、来賓を代表して日本包装技術協会 古屋一専務理事の祝辞をいただきました。

井上会長は「50周年記念事業の検討も大きな方向決りを終わり、具体化を進めたいと思っている。今年度は資料をご提供下さいというお願いが皆様によくと思いますので、ぜひご協力ください。」と挨拶しました。続いて来賓代表の日本包装技術協会 古屋専務理事からは「47期までで、11,400名以上の包装管理士が誕生している。皆さんが直面する問題を解決し、新しい技術に挑戦するということは技術者として当たり前のことで、今後の皆さんに是非期待したいのは、消費者に対して、いろいろな問題の対応や新しい挑戦の説明を単純明快に消費者に説明していただきたい」とのお言葉をいただきました。

議案の審議

議案の審議は、活発な質疑応答が行われた結果、4件の議案は全て承認されました。

第1号議案 2012年度事業経過報告及び収支決算報告承認の件

（提案者：事務局長（荒井拓哉・会員番号12006））

冒頭で、会員は4月30日現在30名減っている。唯一東北支部だけが前年度より8名増えている。一昨年、団塊の世代が定年退職し、管理士会も止めたいという方が多く約100名減ったが、今年度は30名減ということで、これから減る数より入っていただく数が増えていけばと考えていると述べた。

○2012年度の各事業の活動報告

財務：年会費は予算とほぼ同等の収入であったが、減る人より入る人を増やすように努めたい。

情報：Windows XPのサポートが終了するため、事務局のパソコン2台を今年中に買い替えを迫られている。

広報：ホームページに見学会や研究会の感想・意見を紹介することは、事務局の力不足で実施に至らなかった。

国際：タイのプロパックの視察、東京国際包装展等、関東支部中心に活発に活動している。

総務：関東支部と各支部との交流を進めており、昨年は東北支部・関東支部合同のサマーセミナーを行い、仙台のレンゴーさんを見学、その後、松島に一泊して東北支部・関東支部の25名により交流会を実施した。

「東京パック2012」で、JPIと包装関連4団体協働で「東日本大震災に対して包装がどのように関わったか」というテーマで、実作業を行った。「10大ニュース」は各支部から総数40点の応募があった。

事務局：新包装管理士に限らず、既存の有資格者に入会の勧めを積極的に進めようと考えている。JPI、日本規格協会との協働で、JIS規格票等の20%割引販売を、IPP会員に斡旋しているが、継続的にかなりの申し込みがある。

2012年度収支決算報告につき、引き続き事務局長から提案があった。

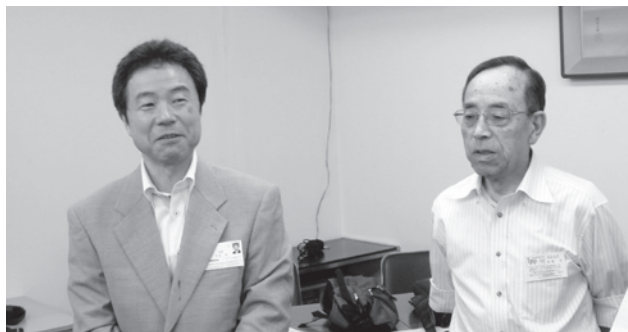
第2号議案 2012年度業務監査報告及び会計監査報告承認の件

業務監査報告（提案者：業務監事・藤井健治郎氏（会員番号 10111））

5月23日、日本包装技術協会の応接室をお借りし

て、業務監査を行った。各業務担当者より提出されていた報告書を詳細に確認した結果、各部門はそれぞれの業務において財務状況が大変厳しい中、2012年度の計画をほぼ計画通りに実行されており全部門一致して活動したことが評価されるものと認める。会計監査報告（提案者：会計監事・塚本富陸氏（会員番号 13093）

5月23日、日本包装管理士会事務所において、会計監査を実施した。2012年度の会計帳簿、収支決算報告書及び貸借対照表を監査したところ、公正妥当な会計習慣に従って作成されたことを確認した。



東北支部から出席の斎藤副支部長と渡邊誠氏

第1号議案、第2号議案に対する質疑応答

以下の質疑応答があった（ポイントのみ記載）。

（発言者：小林弘侑氏（会員番号 17089））：1つ目は、会員数の減少管理です。現在の会員の組織率としては7%で、20年後には、予算226万円、会員数280人になる。新規会員だけではなく、いかに他の期から参加してもらうかということに力を入れてやらないと会員数は増えない。50周年もあり、ここ2・3年が正念場と思う。2つ目は、議案書の書式が、盛り込む内容が不足している。3つ目は支部間の予算項目を統一する提案で、各支部とも予算項目の継続性がなく、会議費、事業費、運営費、管理費などの内容説明が不足で分かりにくい。

（発言者：会長・井上伸也氏）：包装管理士は累積だけで見ると50年で11,000人、最近10年位は400人ずつ、10年で4,000人有資格者が増えている。合格者の一割は会に入っていただきたいと意志表示をしているが、勧誘がちょっと停滞しているというのが現状です。ここ2・3年は本当に正念場ということは本部理事全員が理解しており、危機感をもって進めていくという意志を持っている。

質疑応答終了後、拍手多数によって、1号議案、2号議案が承認された。

第3号議案 2013年度事業計画(案)及び収支予算(案)承認の件

（提案者：会長・井上伸也氏）

＜事業計画説明＞

重点課題は基本的には2012年度と大きな変更はない。やるべきことはこの6つの部分に表わされ、それプラス7番として、50周年という節目の事業に向けて、今後どの方向にもっていきべきかという事を組織、運営も含めて具体案を生み出していきたいというのが、今年度の目玉です。

財政：今のままの規模だと余裕がなさすぎる。ぎりぎりです事務局運営をやっているが、端的な例が2013年度でWindows XPというOSソフトのサポートが終了する。トラブルが起きた時に会員さんに迷惑を掛けることを考え、パソコンは更新したいと考えている。

情報：ホームページのサポートは前進しているが、まだ更新の頻度が少ない。各支部に要請し、積極的に掲載してもらい強力に推進していきたい。

広報：ホームページと、「ippニュース」というハードコピーも会員全員に確実に渡っているのはこれしかないの、継続していきたい。今総会の報告も予算の都合上、簡単にまとめさせていただくことをご了承いただきたい。

国際：本部として海外から視察にこられた方々と交流している。こちらから行くことは、JPIがやっておられるし、IPPの中では、関西支部、関東支部など各支部の活動が進んでいるのでそれをサポートしていきたい。前向きに新しい情報を提供する形作りをしていきたい。

総務：今まで通りIPPの円滑な運営と関連団体との交流の推進をしていく。

事務局：関東支部が東北支部と相互乗り入れしようとしている。管理士会は全国ひとつの会です。そういう各支部の交流を本部としてバックアップしていきたい。研究会や講師の紹介等も支部の活動を支援していきたい。

＜2013年度予算（案）＞

支部活動費が少ないという疑問もあると思うが、会費納入済み人数をベースに予算を立てる計算方式に変えている。中部支部は中部支部の収入予算と本部への上納金をそのまま掲載している。5,603,200円の会費収入予算で、関東支部には事務局費などの名目で105万円支えていただき、最終的に6,866,240円という予算で運営していく。支出予算のうち、支部活動費は、4,147,200円×0.7を、中部を除いて分配し

ているが、東北支部以外は全支部減っている。約690万円の収入のうち、約400万円が支部活動費です。広報「ipp ニュース」は、2012年度約58万円の予算で2回発行したい。国際交流、PACK SHOWの予算は、関東支部に小間の運営をお願いする費用です。財務は金銭的にも限界にきており、いじっていない。情報の積立75,000円は、パソコン2台分には足りず、場合によっては一時的に基金の流用も理事会で議論をしたうえで判断していただきたいと考えている。事務委託手数料という名目の事務局の家賃についても昨年から10万円下げてください、この金額にしている。事務局の179万円という予算はちょっと無理しているが、赤字にしないようにやる。どうしても無理なのはパソコンの買い替えだけで、基金の流用については本部の理事会で議論し、了解をいただいたうえで、報告をしたい。厳しいのは50周年プロジェクトの予算で、データを集め始めるとその費用がどうなるか、まだ判らない部分がある。

第3号議案に対する質疑応答

(発言者：小林弘侑氏（会員番号 17089）)：2010年の総会で会員の意見を聞く場を設け、会の運営に反映するといわれているが、どういう形でどういう範囲で進めているのか伺いたい。

(発言者：会長・井上伸也氏)：ひとつの方法としてはメールのやりとりと言える。50周年プロジェクトについても、各支部長さんにメールで意見参加をお願いしている。今日の議案書も、本部から一斉配信が良いと思うが、各支部の事務局を通じて意見を求めることも良いと考えている。最近だと10大ニュースの投稿があり、非公式な場では、研究会、見学会などの会合で参加していただいた会員から意見をいただいている。

(発言者：荒牧哲氏（会員番号 23038）)：今回予算は従来と違った方式でいくと説明があったが、毎年会員数が10%ずつ減少するというのが去年位から一割ではなく5%、今年の実績を見ると4%位ということは、増収分はいつ支部に配分されるのか。

(発言者：会長・井上伸也氏)：いくら違ってきただけで配分し直すという明確な規定がない。100%の人数が集まれば支部への配布金も改めて計算して精算する、というルールでやってきたが、残念ながらいままで一度も精算された実績がない。今年度初めてそうなるかと思ひながら、805名が758名で計算しているので、12月頃に理事会で確認したいと思っている。

拍手多数で、第3号議案が承認された。

第4号議案 役員候補（案）審議の件

(提案者：会長・井上伸也氏)：今年度は本部役員改選の年ではないが、本部の活動に参加いただける方として31期の須藤さんをお願いし、ご了解をいただいた。須藤さんには今期1年の任期で2014年の改選期には改めて改選になる。その後、第4号議案が拍手多数で承認され、議長が審議に対する謝辞と議事の終了を告げた後に、新任理事の須藤氏の力強い挨拶があった。

第47回定時総会は、大野理事の閉会宣言により無事、幕を閉じ、出席者による交流会となりました。



JPI 古屋専務理事と包装 4 団体の会長



総会を終了し乾杯！

なお、本部定時総会に先立ち、第41回日本包装管理士会関東支部定時総会が同日、同会場で開催されました。19名の出席者と141名の委任者によって成立し、4件の議案は全て承認されました。新任理事は道明誠氏と須藤貴行氏の2氏が提案され、承認されました。

2013年度 日本包装管理士会 支部長

北海道支部	酒井 幸彦 (36期)
東北支部	鈴木 雅彦 (23期)
関東支部	山田 孝志 (35期)
中部支部	岡部 智 (27期)
関西支部	桃川 公一 (23期)
西日本支部	宮崎 義一 (21期)

関西支部だより

関西支部 細田基則（13期）

2012年度は関西支部創立40周年の年でした。記念行事として本年5月31日に(株)パッケージング・ストラテジー・ジャパン社長の有田俊雄様を招き「40周年記念講演」を開催することができました。

関西支部では会員の皆様に交流の場を拡げて頂くためにいろいろな事業を展開していますが、非会員の方々にも門戸を開き、ミニセミナーや見学会を開催するとともに、女性だけの包装研究会（W会）との合同研究会も継続して行っています。

2013年度も昨年同様に門戸を開いた諸活動を展開すべく、5月31日に関西支部総会を開催し活動方針を

承認して頂きました。

会員の皆様にはこぞって参加して頂き、情報交換や業務に役立てて頂きたいと願っています。

◆関西支部40周年記念講演会&交流パーティ

2013年5月31日 於：中之島センタービル28階
(包装技術協会関西支部)

講師：(株)パッケージング・ストラテジー・ジャパン
取締役社長 有田俊雄氏

【提言2013】今こそ包装の本質的価値を見直そう
一次世代に託す“日本ブランド”信用回復ー



40周年記念講演会での有田講師



40周年記念交流パーティの記念写真

◆ミニセミナーの開催

◇第15回 1月29日

「スウェーデン企業及び先端研究視察報告」

講師：昭和丸筒(株) 長崎美智子女史



第15回講演会風景

「加工食品進化論」

講師：大塚食品(株) 小林光氏



第15回ミニセミナー交流会

◇第16回 2月26日

「改ざん防止点眼容器の開発」

講師：大成化工(株) 宮武諭氏



第16回講演風景

「段ボール箱の胴膨れに及ぼす含水率の影響」

講師：レンゴー(株) 東山哲氏



第16回講演会での東山講師

◆2012年度／2013年度 関西支部 総会
2013年5月31日 於：中之島センタービル28階
(包装技術協会関西支部)



定時総会で事業報告をする桃川関西支部長

- ◆研究会・見学会・セミナーの予定
- ・第4回W会（女性だけの包装研究会）との合同研究会；（実施済）6月25日
 - ・第17回ミニセミナー；9月予定
 - ・第18回ミニセミナー；12月予定
 - ・第19回ミニセミナー；2014年2月予定
 - ・第20回ミニセミナー；2014年3月予定
 - ・見学会&セミナー；アサヒビール(株)吹田工場；（実施済）7月30日
 - ・見学会&セミナー；2013年11月予定
- ◇会員各位には都度ご案内を申し上げますので、ぜひご参加ください。

東北支部だより ●●●

東北支部長 鈴木雅彦（23期）

7月5日無事に支部総会を終了致しました。今期も支部長を仰せつかりました（株）東北ウエノの鈴木雅彦です、よろしくお願い致します。

東北震災から早くも二年が過ぎ去った東北地区ですが、皆様も報道等でご存知のように、決して復興が進んだとは言えない状況です。そのような中で包装管理士会東北支部としましては、会員増強を第一テーマに活動をしてまいりました。

昨年は初めての試みとして、地区間交流会を開催いたしました。広い東北地区で皆さんの交流を深めるきっかけ作りとして、八戸で工場見学会と有田様の講演を企画致しました。福島・山形・宮城・岩手、青森の会員が集う事が出来、夜は地元の食材に舌鼓。復興支援にも少しですが、寄与致しました。

研究会活動では、JPI東北支部をサポートする形で研究発表テーマを企画し、コーディネーターを派遣して行いました。まだまだ会員皆様のご要望にお応え出来る内容には不十分ですが、着実に実績も増え

てまいりました。今年度は二回、4テーマの開催を計画しております。今後も会員皆様に有益なテーマを選定して、開催したいと思っています。

工場見学会では、二年後に開業する仙台の市営地下鉄工事現場の視察を行いました。従来は包装に関連する企業の工場見学会でしたが、完成してしまってからでは見る事が出来ない、今でしょ！との事で、工事現場の視察を致しました。地下三階での現場はとても快適な温度で、外の暑さをしばし忘れて見学をさせて頂きました。私などは普段発泡体を扱っているの、公差などはあまり気にする事が無いのですが地下鉄工事では数十キロのトンネルで数ミリの誤差と聞いて驚き、日本の技術力の高さに感心致しました。またここでも環境対策は十分に考えられており、工事そのものもいろいろな工夫がされていました。また、走る電車はリニア車両との事でした。



定時総会の会場で



仙台市営地下鉄工事現場の視察

今年度は関東支部のご協力も得て、関東支部開催の研究会等の案内も、東北支部会員にメールにて配信していく計画です。会員増強のキープポイントはやはり魅力ある会の運営に尽きると思います。会員相互の交流会は、異業種間交流の可能な会がIPPです。そして共通した悩みや問題点を抱えた会員で構成されていることも大変重要な事なのです。共通の悩み・問題点を気軽に相談できる会に、今後も育てていきたいと考えております。

皆さんでIPPを育てていきましょう。

北海道支部だより

北海道支部長 酒井幸彦（36期）

IPP会員の皆様、暑い夏をお過ごしのことと思います。

北海道もゴールデンウィークの異常な寒さが嘘のような夏を迎えております。札幌の大通公園のビアガーデンもオープンし正に夏、真っ盛りです。

但し5月の低温の影響及び少雨のため農産物の生育が大幅に遅れ、収穫に影響を及ぼしております。今後の天候に期待するところです。

北海道経済の大きな収益である、観光産業が昨年の政権交代、「アベノミクス」による円安にて外国人観光客が増え活気を呈している状況で、小樽の運河には中国人観光客が多く見受けられます。

会員の皆様にも、ぜひ避暑に北海道に来て、美味しいものを食べて満喫していただければと思います。

【定時総会開催】

平成24年度定時総会を6月4日札幌すみれホテルにて開催致しました。

平成24年度事業報告を承認して頂き、更に平成25

年度事業計画に於いて協議し、了承して頂き推進する事で終了致しました。

【25年度の主な事業計画】

*納涼ビール会を7月開催。

*包装技術協会北海道支部との親睦を深めるため、ゴルフコンペを9月に開催予定。

*包装懇話会及び研究会を例年通り開催予定。

【納涼ビール会開催】

7月19日に包装技術協会北海道支部との親睦を深めるために、キリンビール園（札幌）にてビール会を開催、16名が参加し美味しいジンギスカンに舌鼓を打ち、冷たいビールを思いっきり飲み、語らい、楽しいひと時を過ごし終了致しました。今回で2回目ですが次回はアサヒ、キリンと来たのでサッポロビール園にて行う予定です。

中部支部だより

中部支部長 岡部 智（27期）

輸送包装研究例会と第44回定期総会

平成25年6月27日（木）の午後、JPI中部支部との共催事業で「輸送包装研究例会」を、名古屋駅東口に近接したウインクあいち（愛知県産業労働センター）において、90名の参加者を集め開催しました。この研究例会では、第1講演は「包装貨物-性能試験方法一般通則JIS Z 0200 の改正内容とその経緯」の演題で富士ゼロックスアドバンステクノロジー（株）の小勝則次氏より、また第2講演は「通販及び店舗間配送向け高さ可変段ボールシステム（I-Pack）、（Ultipack）」の演題でレンゴー株式会社パッケージングディビジョン段ボール部門システム営業推進部システム営業課 上北敏弘氏よりお話しいただきました。

例会終了後は同会場で、中部支部第44回定期総会を開催しました。第1号議案の平成24年度事業と収支決算の報告承認の件、続いて第2号議案の平成25年度事業計画、収支予算（案）承認の件、第3号議案の役員の信任案について提案があり、原案通り承認され

ました。第3号議案では新支部長として岡部智氏（株オカバカミコン）が承認され、また運営委員として新たに原田隆雄氏（積水テクノ商事西日本（株））および岡田昌樹氏（株チューゲン）に加わって頂くこととなり、今後この新体制のもと各種事業を展開してまいります。

引き続き、支部活動への会員各位のご支援とご協力をお願い致します。



中部支部第44回定期総会

西日本支部だより ●●●

中村 格勇 (26期)

(A) 日本包装管理士会西日本支部35周年記念祝典・親睦会

- 1) 日時 平成25年3月15日
2) 場所 朝倉市美奈宜の杜 (温泉山荘)

コメント：福岡都心から車で約45分の山荘で祝典・活動報告・永年者表彰と親睦会を温泉に入りながら語りあいました。



永年表彰の方々

(B) 交流会 ゴルフコンペ

- 1) 日時 平成25年3月16日
2) 場所 秋月カンントリー

コメント：秋月CCと美奈宜の安価なSETパックで、自然の中、ゆとりの時間を過ごしました。皆さん是非「計画されたらどうでしょう」IPP西日本支部へ連絡下さい！！

(C) IPP・JPI共催見学会

- 1) 日時 平成25年3月15日
2) 見学
①明治 九州工場 (福岡

県八女市)

安全と安心への取り組み及び明治九州工場の概要・牛乳の製造工程

②東洋製罐(株)基山工場 (佐賀県三養基郡基山町)

缶・PETボトル・ガラス瓶・紙コップなど、便利な生活を支えている容器の製造工程

コメント：見学会は、IPP・JPI会員のみならず、今回、九州包装資材協議会からも参加頂き有意義なものでした。今後とも一般参加を呼びかけます。

特にIPP・JPI会員の参加を望むものです。参加しないのは「もったいない！！」

猛暑に負けずに

7月23日



明治 九州工場 見学会

関東支部だより ●●●

「東京湾ディナークルーズ」と写真撮影会を開催

IPP写真研究会 林 晴夫 (19期)

IPP写真研究会では2013年6月28日に東京湾でのディナークルーズと写真撮影会を開催しました。

6月28日、曇天微風のJR浜松町に18時集合、参加者は9名でした。浜松町から日の出桟橋のシンホニーディナークルーズ待合所に行き、乗船時間まで待機、18時45分にシンホニー号に乗船です。総トン数2618トン乗員数600名の小ぶりの客船です。4階の大衆席に案内され真夏のビア&カクテルのディナークルーズの出発です。

鐘が鳴り東京湾をハートライン?に運行します。

写真撮影の前にまず美味しいビールにて乾杯です。

客船はお台場公園を左に見てライトアップした東京ゲートブリッジに向かい、さあ撮影タイムです。

夜の東京湾の夜景がグルリと広がっています。東京灯台跡を右に見て早くも帰途につきます。羽田空港の灯が点滅しています。若いカップルには素敵な時間ですね。撮影も終り、帰席し各種カクテルがまわり皆少し酔い心地です。お隣でピアノ演奏が始まり我々も歌唱に加わりました。まもなく品川埠頭が

見え本日のクルーズ終了です。20時に下船し浜松町駅にて散会しました。



クルーズ船シンホニーの前で

「IPP写真研究会」
第10回写真展のお知らせ

月日：2013年9月5日(木)～10日(火)

開催時間：9：30～17：00

(5日13：00～10日15：00まで)

会場：横浜山手234番館

皆様のご来場をお待ちしています。

関東支部だより ●●●

関東支部 春季見学会開催

関東支部副支部長 古平 篤（25期）

平成25年2月20日、キッコーマン食品(株)・野田工場を見学しました。

野田市駅に集合、貸切バスでキッコーマン食品の充填工場、御用蔵、もの知りしょうゆ館を見学しました。

充填工場は、通常一般の方は見学できませんが今回は特別に見学させていただき、PETボトルに醤油を充填するラインやラベルを巻くライン、製造年月日を印字するライン、検査ライン、カートンに詰めるライン等を見学する事が出来ました。



もの知りしょうゆ館で記念撮影

充填工場見学後、バスでキッコーマンの野田本社、研究所等を周り、もの知りしょうゆ館と御用醤油製造所（通称「御用蔵」）に到着しました。御用蔵は、宮

内省（現宮内庁）にお納めするしょうゆの専用醸造所として、1939年に建設され、老朽化で移築工事を行いました。しょうゆを仕込む木桶、屋根の小屋組み、屋根瓦、石垣、門などは原形に近い形で再現しています。御用蔵では、現在も宮内庁にお納めするしょうゆを醸造しています。

その後、もの知りしょうゆ館の見学ではしょうゆの製造工程、もろみの熟成の様子やしょうゆの色・味・香りを体験し、しょうゆ醸造を楽しく理解する事ができました。その後、ホールで質疑応答とキッコーマン食品の包装に関する考えかたのプレゼンテーションをしていただきました。

見学後、駅の近くの居酒屋で情報交換会を行い、午後7時半に閉会となりました。



家庭的な居酒屋で情報交換会

第3回「スキルアップセミナー」を開催

関東支部副支部長 前川喜知也（28期）

平成25年2月22日3時から、(株)文昌堂10F貸会議室において、第3回スキルアップセミナーを開催しました。参加者は16名で、この内47期卒業の初めての参加者が2名ありました。

1部 テーマ：接着の基礎Ⅱ 講師：大濱健司

今回は、1回目、2回目の復習を兼ねながら、接着剤の選択の為のチェックポイント、コーティング加工方法、接着剤の剥がし方の基本の講演があった。

2部 テーマ：特許編 Day3 講師：櫻田賢

スキルアップセミナーの目的と特許権で稼ぐ方法を習得し、会社の利益に貢献し、包装管理士の会社内での地位向上及び活動のしやすい環境作りを取り上げられ、前回までの演習の解答とその考え方について、講演された。



熱心にセミナーを受ける受講生

「第3回包装研究会」を開催

関東支部事務局

平成25年3月29日18:30から、(株)文昌堂10F貸会議室において、第3回包装研究会を開催し、16名の会員が参加しました。

第1部は、第47期包装管理士講座優秀論文の発表、第2部は約1年間の米国留学から帰任された、若井氏（関東支部理事）のホットなアメリカ包装情報で、参加者は熱心に耳を傾けました。

1部 テーマ：防錆剤併用大型梱包における乾燥剤適性についての研究

講師：日本化工機材株式会社 高橋 裕美氏

大型梱包における乾燥剤の適性に関する研究で、乾燥剤と調湿剤の活用について分かり易く解説されました。

2部 テーマ：ミシガン州立大学・包装学科の紹介

講師：雪印メグミルク株式会社 若井 宗人氏

世界で最も包装試験設備が整い、7000名以上の卒業生を排出しているミシガン州立大学の概要、設備、プログラム等が詳しく紹介されました。



左から若井講師、高橋講師と司会の道明理事

関東支部 マレーシア視察旅行実施

関東支部副支部長 古平 篤（25期）

関東支部の9人のメンバーが、7月4日～8日までマレーシアのクアラルンプールとマラッカ等を視察しました。

今回はクアラルンプールのPWTC（Putra World Trade Centre）で開催された、3つの展示会（M'SIA-PLAS, M'SIA-PACK, M'SIA-FOODPRO）および市場調査を行いました。



展示ブース正面

7月4日木曜日の深夜、羽田国際空港に集合し、エアアジアを使用して5日の早朝にマレーシアのクアラルンプールに到着しました。ホテルに荷物を預けた後、展示会場のあるPWTCに向かいました。PWTCはマレーシア最大の展示会場でありそこで3つの展示会を視察しました。展示会の内容はプラスチック原材料、マスターバッチ等の添加剤、インジェクションの成形機械や押し出しの機械等の展示があり、特にインジェクションの成形機械が各メーカーから、出展されていました。また、シュリンクラベルとそのシュリンク機械、重量物を搬送する装置や紙器の展示等もありカフルでした。



機械展示が多い会場

展示会の視察を終えたあと立ち寄ったKLCC内のショッピングプラザでは日本でお馴染みのユニクロ、伊勢丹、本の紀伊國屋、THE BODY SHOP等を見学しました。

7月6日はクアラルンプールの市内および郊外を観光しながら、チョコレート工場（ペイリーズ）、マレーシアの特産物の錫を加工するロイヤルセランゴールピューター工場をしました。特にセランゴールピューター工場は日本語が話せる社員の案内で工場の加工施設を見学する事ができました。

夕刻からTRADOMATIC TECHNOLOGIES SDN. BHD.の社長をされている日本人の下平幸市さんと情報交換会を行いました。

7月7日は、ユネスコの世界遺産であるマラッカを観光し7月8日はKLタワーに上り250mからの展望を楽しみ、その後、帰路に着きました。羽田国際空港に午後11時に到着し、有意義な視察旅行を終えました。



ペトロナスツインタワー（452m）

トピックス ●●●

東京都との協働による学習会へ 講師を派遣

関東支部事務局

東京都地域消費者団体連絡会から「東京都との協働による学習会」に講師を派遣してほしいという依頼があり、3回の学習会の講師を、3名の会員がそれぞれ務めました。

学習会には、多数の消費者団体の方が出席し、毎回熱心な勉強会が開催されました。

●勉強会シリーズタイトル：包装技術のいま

～商品を手にする前に知っておきたい～

第1回 3月4日（月） テーマ：PETボトル

講師：大濱 健司氏（ポルターレ代表、IPP関東支部理事）

第2回 3月18日（月） テーマ：紙

講師：五十嵐 誠氏（IPP関東支部理事）

第3回 3月25日（月）

テーマ：アクセシブルデザインを中心に

講師：井上 伸也氏（IPP会長）

関東支部では、今後も消費者との勉強会などを積極的に進めていく予定です。

編集後記 ●●●

IPP定時総会が6月19日（水）に開催されました。

今年の総会では、会員減少の歯止めはできないか質問がありました。

会員減少傾向は取り合えず収まりつつあります。今後も会員拡大を継続して働きかけていきます。

質疑応答が活発にあり、総会では、全ての議案は無事承認されました。

今年後半のイベントとしては、PACK SHOW 2013が開催されます。皆様のご協力をお願い致します。

今年の夏は、異常気象で局地的な豪雨、竜巻、落雷、地すべり等が発生しています。また、各地で体温を越える気温を記録しており、熱中症には十分気をつけて下さい。

皆様には健康に留意されてご活躍する事をお祈り申し上げます。
前川喜知也（28期）

日本包装管理士会 / Institute of Packaging Professionals, Japan

e-mail: ipp@pk9.so-net.ne.jp

<http://www.ippj.net/>

■本部	〒104-0045	東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F 日本包装技術協会内	☎ : 03-3543-9250 fax : 03-3543-8970
■北海道支部	〒060-0004	札幌市中央区北一条西2丁目 北海道経済センタービル 北海道生産性本部内	☎ : 011-241-8591 fax : 011-241-3898
■東北支部	〒021-0893	岩手県一関市地主町3-35 株式会社 東北ウエノ内	☎ : 0191-21-4531 fax : 0191-21-5381
■関東支部	〒104-0045	東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F 日本包装技術協会内	☎ : 03-3543-9250 fax : 03-3543-8970
■中部支部	〒450-0003	名古屋市中村区名駅南4-1-2 17日通ビル2F 日本包装技術協会内	☎ : 052-563-7110 fax : 052-563-7123
■関西支部	〒530-6691	大阪市北区中之島6丁目2-27 中之島センタービル28F 日本包装技術協会内	☎ : 06-6444-6479 fax : 06-6444-6450
■西日本支部	〒800-0233	福岡県北九州市小倉南区朽網西1丁目6番3号 ワイルド化成株式会社内	☎ : 093-474-1211 fax : 093-474-1113

Copy & FAX 用切取線

日本包装管理士会会員登録データ変更届

■宛先 日本包装管理士会事務局 fax : 03-3543-8970 ☎ : 03-3543-9250

フリガナ						
氏名	会員番号		番	平成	年	月 日届
会社	社名					
	所属					
	住所 〒					
	TEL FAX					
自宅	E-mail					
	住所 〒					
	TEL FAX					
	E-mail					